

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より、千葉県内を対象に開催しており、毎年1万人を超える児童が参加しています。



このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを自然と気づかせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想するとき、子どもたちはとても楽しく夢を膨らませます。コンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントでしますが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。

●コンクールのねらい

自分たちを取り巻く環境や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育つ千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるでしょう。それが愛国心につながると良いと思っています。

●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。身の回りや実社会で起こったニュース、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、学校生活にヒントがあります。

●先生や保護者の皆さまに

皆さまにお願いいたします。低学年には、使い捨ての実態やおもちゃの寿命を例に意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

ほんの少しの話し合いが子どもたちの想像力を湧き上がらせるきっかけになるでしょう。

●学齢に応じて

学年を問わず、子どもたちの視点は広く、ごみを減らすためのアイデア、出さないアイデアは大人を感心させるのに十分です。低学年でも楽しく取り組んでいます。「整理整頓」や「環境美化」はコンクールの趣旨から外れますのでご注意ください。

●先生方の声

昨年、作品応募時にいただいた声を抜粋して紹介します。

子どもたちの中に、エコの意識が生まれる良い機会となっているように感じます。作品をどんなものにしようかと、夏休み中に家族に相談して考えたという子どもも多く、家族でもエコについて話し合う機会にもなったと思います。環境問題から家庭でできるエコについて考え描く時間をもてました。
<いすみ市>

SDGsの取り組みも少しずつ子どもたちの生活と関わりが深くなってきたこともあり、この題材に興味を持つ子が増えているように感じます。描く技術が、本人の持つイメージに追いつかない、という場合もあると思いますが、応募した子どもたちは一人一人想いをもって描きました。<鴨川市>

大人には想像できないような発想、アイデアがたくさん集まり、「もしかしたら将来、実際にあるかも!」と感じるアイデアを発見できると思います。今ある職業が5年後、10年後あるかどうかわからない。新しい事がどんどん増えてくる時代で、固定概念にとられない児童の自由な発想を表現する場として、このコンクールは「ごみ箱」というテーマの絵画に楽しく取り組める良い機会になると思います。<野田市>

夏休みの長い期間を使って、地球環境や身のまわりの環境状況を見つめなおすよい機会となったと思います。低学年から高学年まで、発達段階に応じて作品制作を行うことができました。今後もこのコンクールを通じて作品の題材や作成背景を考えていくことで、環境問題に目を向けることができるよう指導していきます。<四街道市>